

[タキオン]

Tachyon



なかにし礼氏によって作詩された公立小松大学校歌のタイトルは「光より速きわれら」。ときに光速をも超える思念やインスピレーションが本学学生・職員の spirit から発せられるよう念願し、本誌のタイトルとして選んだのが「タキオン」(Tachyon)である。Tachyonは、未だ確認されていない粒子であるが、光より速い速度をもつとされ、ギリシャ語の「 $\tau a \chi \upsilon \varsigma$ (速い)」を語源とする。

学長 山本 博

(図出典：Institut for teoretisk Fysik)

We Enjoy
Campus Life

弓道サークル

末広キャンパスに程近い
小松市武道館で練習しています。

※大学HPでは、広報室学生委員によるサークル突撃取材の記事を公開しています。



01 大学院「サステイナブルシステム科学研究科」開設

03 大学TOPICS

05 第4回青松祭・滝ヶ原フィールドワーク・各種表彰

06 教員紹介 徳田 真由美 看護学科教授

07 ぶらりキャンパス案内

vol. 8

2022.03

多様な専門性で地域と世界の発展に貢献 大学院「サステイナブルシステム科学研究科」開設

令和4年4月、新たに大学院修士課程が誕生します。分野融合的な1研究科3専攻の構成で、専門の垣根を超え、複雑化する地域と世界の諸課題の解決と持続可能性への貢献を目指します。

「サステイナブルシステム科学研究科」は、今後の地域・国際社会のサステイナビリティ（持続可能性）とその実現につながるシステム構築を担い、人材育成を共通の目標とする「生産システム科学」、「ヘルスケアシステム科学」、「グローバル文化学」の3専攻からなります。

今や世界中で推進されている「SDGs：Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」は、国連で採択された2030年に向けての17の目標ですが、本大学院が目指すサステイナビリティとは、SDGsの基本理念を踏まえつつ、「人類と地球、人々と地域の生命、健康、幸福、平和を未来にわたり続けさせること」と定義し、2030年以降も

幾世代にもわたって地域と世界の発展に貢献しうる人材育成に取り組めます。

分野を超えた専門性の共創

高度情報化・超高齢化の進行に相まって世界は今大きな転換点を迎えています。ものづくりの世界では、再生可能エネルギーの利用や新しい生産システムの構築が必須であり、保健医療の分野では、人生100年時代を支える遠隔医療システム開発など変革への対応が求められています。さらに、地域・国際間パートナーシップの強化や多文化共生といった課題もあります。

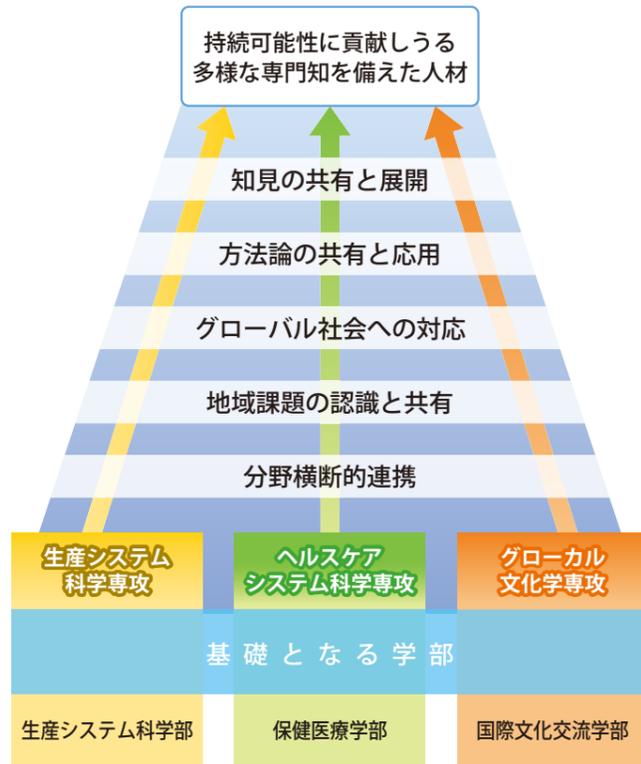
持続可能性の追求は、地球環境と人類が関わる全ての事象に係る

ことから、特定の限られた専門分野だけによってではなく、課題相互の関連性を統合的にとらえたアプローチが求められます。本学が有する工・文・医系の全アクティビティを結集・連携させ、広い視野と高度な専門知識を有する人材を育成するとともに、新しい研究コラボレーションや応用研究が生み出されることが期待されています。

*

本大学院の大きな特色の一つは、3専攻に共通する教育プログラムです。地域・世界の課題の認識と共有を図るオリエンテーションからスタートし、専門共通・応用科目ではデータ科学やAI、コミュニケーションスキルなど共通リテラシーの

サステイナブルシステム科学研究科 修士課程の概要



修得を図ります。さらに、専攻専門科目のほか分野横断的専攻専門科目を設け、他分野の考え方や研究方法を学び、最終的にフィールドワークを通じたケーススタディ及びインターンシップに重点を置いた修了研究へとつなげます。

都市環境、生命倫理、文化資源などの分野で世界的に活躍する教員も新たに招き、専任教員は約50人となります（学部の兼任含む）。他専攻の教員を含む複数教員による指導体制で、分野横断的な研究をバックアップします。

新たに大学院棟も建設

栗津・末広・中央キャンパスは、それぞれ生産システム科学専攻、ヘルスケアシステム科学専攻、グローバル文化学専攻の教育研究活動の場となります。さらに、栗津キャンパスには大学院棟を増設。2階建て延べ床面積約600㎡で、研究室や実験室を配置し、各種大型実験装置も導入します。また、各キャンパスの附属図書館では、電子ジャーナルを含む図書資料の充実を図ります。



Unite for sustainability
学長 山本 博

200年ほど前に比べると、人類は格段に長生きで裕福になりました。これは、しかし、犠牲を払ったことでした。連日、1万ヘクタール以上の緑地と100種以上の生物種が、地球上から失われています。英国リーズ大学のO'Neill氏は、地球環境への負荷と社会生活の質とを国毎に定量評価し、各国は今後、前者を減らしつつ後者を高めなければならないと提言しました。南山大学のHeisig氏は、当代の思想哲学にも地球と共通善への気遣いが求められると述べました。運命共同体である地球と生命の将来にわたる存続を可能にするために必要な方向性、それが、「sustainability—持続可能性」にほかなりません。

公立小松大学は今春、大学院サステイナブルシステム科学研究科—Graduate School of Sustainable Systems Science を開設します。これにより、「持続可能な地域・国際社会の発展に寄与する知の修得・創造・還元・循環の拠点形成をめざす」と謳った大学憲章の基本理念の実現に向け、さらなるステージアップを図ります。前途有為の皆さんの入・進学もお待ち申し上げます。

大学院についての詳細は、
ホームページでご確認下さい。



栗津キャンパス大学院棟（完成予想パース）

サステイナブルシステム科学研究科 Graduate School of Sustainable Systems Science

専攻名	学位	修業年限	入学定員
生産システム科学専攻 Division of Production System Science	修士（工学） Master of Science in Engineering	2年	15人
ヘルスケアシステム科学専攻 Division of Health Sciences	修士（保健学） Master of Science in Health Sciences	2年	3人
グローバル文化学専攻 Division of Global Cultures	修士（国際文化学） Master of Science in Intercultural Studies	2年	3人



2022年2月～10月

スケジュール

2月17日(木)～4月6日(水)

春季休業

2月25日(金)

一般選抜(前期日程)

3月9日(水)

一般選抜(中期日程)

3月23日(水) 10時～

学位記授与式 @こまつ芸術劇場うらら

4月1日(金)・6日(水)

健康診断

4月2日(土) 10時30分～

入学宣誓式 @こまつ芸術劇場うらら

4月4日(月)・5日(火)

新入生オリエンテーション

4月7日(木)

前期授業開始

※履修登録は4月20日(水)まで

4月9日(土)

きずな合宿 ※新入生対象

7月28日(木)～8月9日(火)

前期試験(補講・試験予備日含む)

8月10日(水)～9月27日(火)

夏季休業

9月28日(水)

後期授業開始

※履修登録は10月11日(火)まで

★さらなる地域連携を目指して シーズ・ニーズマッチングシンポジウム

11/27(土)

「今こそ地域と共に!」と題し、オンラインでシーズ・ニーズマッチングシンポジウムを開催し、約70人が参加しました。

看護学科の中田明恵准教授は、小松市の新型コロナウイルスワクチン集団接種会場の運営協力を看護学科が行った過程を説明し、行政と大学の協働には、日ごろからの関係性が重要と解説しました。国際的約谷茂樹教授は、小松市「鶴遊立エリア」活性化に向けた、ゼミや地域実習での学生の取り組み状況を紹介しました。臨床工学科の井澤純子講師による「画像による生体情報の解析」の発表に続き、生産システム科学部の梶原祐輔准教授は、AI人材の育成を目的に立ち上げた「AI研究会」について、今後、地域企業等も含めて展開を図りたいと呼びかけました。最後に、JST産学連携展開部主任調査員の北川優氏より、大学発新産業創出プログラムの紹介もありました。

各発表は、本学 YouTube チャンネルでご覧ください。



★ボランティアサークルと 小松ロータリークラブが フードパントリーで学生支援

12/7(火)

ボランティアサークルが、小松ロータリークラブ(RC)と共同で、食料品を無料提供する「フードパントリー」を中央キャンパスで実施しました。学生約40人が米や野菜などの食料品、ティッシュや生理用品を受け取りました。



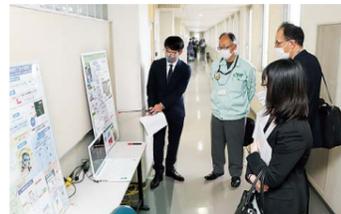
ボランティアサークルでは、市内の団体や企業等の協力を得ながら、学内で定期的にフードパントリーを実施しています。

★学生が企業へ卒業研究を発表 生産 シーズ・ニーズマッチングシンポジウム

12/15(水)

生産システム科学部が粟津キャンパスで「シーズ・ニーズマッチングシンポジウム」を開催し、4年生が卒業研究の中間発表(ポスターセッション)を行いました。

地元のものづくり企業やIT企業など、約30社が参加し、学生たちは来場者に直接、「操作疲れしない仮想ディスプレイの開発」や「磁性微粒子を分散させた樹脂素材の製作」など、それぞれの研究テーマを発表しました。参加者からは、学生の丁寧な説明、研究に対する熱意を評価する声が寄せられました。



★市民公開フォーラム 「地域と世界の持続可能な 未来を考える」

10/24(日)



「持続可能性(サステナビリティ)」をテーマに、本学大学院「サステナブルシステム科学研究科」開設のキックオフフォーラムと位置付けて開催し、学生や教職員、市民など約200人が参加しました。

講演では、国際医療福祉大学の高橋泰教授が「医療の最適化・DX化の観点から」、㈱タジマモーターコーポレーションの田嶋伸博代表が「スマートシティの観点から」、コマツの浦野邦子顧問が「コマツのCSRの取り組みとESG経営」、金沢大学古代文明・文化資源学研究センターの中村誠一センター長が「文化資源学の観点から」を演題に、それぞれ最前線の取り組みや課題、今後の展望などを紹介しました。

質疑応答では、特に自動運転技術について、学生をはじめ参加者から多数の質問が寄せられ、関心の高さがうかがえました。

★こまつの魅力発信へ 学生がふるさとCMを制作

11/21(日)

石川県内19市町が15秒CMを制作し、ふるさとの魅力を発信する「第20回HABふるさとCM大賞」(北陸朝日放送)。本学の映画研究サークルと小松活性化サークル、放送同好会の有志が市内の名所である十二ヶ滝や那谷寺の美しい風景と自然の音を使い、「ふるさとの音に耳を澄ませよう」というメッセージを込めた小松市のCMを制作しました。企画から撮影、編集まで全て学生が行ったこの作品は、YouTubeでも見ることができます。



公立小松大学 TOPICS

2021年9月～2022年2月

★外務省対日理解促進交流プログラム 「カケハシ・プロジェクト」開催

9/10(金)

外務省の対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」を、米国のオハイオ大学とウィスコンシン州立大学マディソン校、リーハイ大学とともにオンラインで開催しました。

国際文化交流学科の学生16人が参加し、日本の食文化や日本語、九谷焼、金沢バーチャルツアーをテーマに発表を行った後、米国の学生たちとのディスカッションで、交流を深めました。終盤には、在ニューヨーク総領事館広報センター長から、海外で学ぶ経験の大切さが伝えられました。



★医療従事者への感謝を込めて 小松市民病院へ折り鶴を贈呈

10/12(火)

新型コロナウイルス感染症対応に尽力する医療従事者への感謝とエールを込めて保健医療学部1年生が色とりどりの折り鶴を作成。学部を代表して久田小雪さん(看護学科)と佐藤真耶さん(臨床工学科)が小松市民病院を訪問し、新多寿病院長に直接手渡しました。



教員紹介

KOMATSU UNIVERSITY

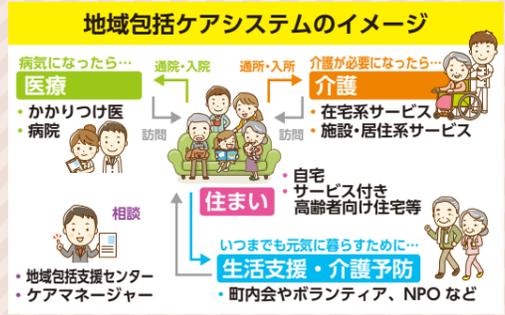


とくだ まゆみ 教授
(看護学科)
Mayumi Tokuda

求められる地域・在宅での看護

在宅看護とは、自宅で生活を送る、病気や障害をもつ人々などへの看護です。生活の場に向って健康管理や生活の支援などを行います。新型コロナウイルスの影響で、自宅での療養や介護、そして看取りを選択する人も増えていて、在宅看護のニーズはとて高まっています。在宅看護を担う看護師は、ご本人や家族が希望する生活を障害なく送れるよう、それぞれの思いを十分に聴き、共に考え、効果的な看護サービスを提供する専門職

人にはそれぞれに生活があり、人生があります。「その人らしく生きることを支える」ことが、在宅看護の究極の目標となります。しかし、「最期までその人らしく」というのは簡単な事ではありません。日本は少子高齢化が急速に進んでいます。現在、「地域包括ケアシステム」の構築が各地で進められていて、高齢者やさまざまな病気や障害をもつ人々に、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるよう、地域の特性に応じ



業人であり、健康面における伴走者のような存在と言えます。

て作っていくことが求められています。看護職もその役割を担いますが、多職種や地域の人々と力を合わせて、地域の強みや課題を見出し、より良いケアや看護を提供できるように自律して努力できる人材の育成に取り組みたいと思います。

コロナ禍の教育で得たもの

令和3年度は、実習施設の協力のおかげで、地域の訪問看護ステーションなどで臨地実習を行い、学生が実際の在宅看護の現場を経験することができました。コロナ禍の制約で大学の授業も翻弄されていますが、できないからこそ、その価値に気づき、辛抱強く頑張る力を多くの

称変更し、1年次から4年間か

本学ではこれまで、2年次後期から在宅看護論に関する教育を行っていましたが、新年度からは、「地域・在宅看護論」と名称変更し、1年次から4年間か



私の休日

あまり外出できなくなりました。家で、お茶を飲む時間が増えました。我が家にはゆづの木があり、そのゆづで作ったジャムを紅茶に入れています。

学生が身に付けていると思います。学内に切り替えた実習では、事例を通して丁寧に考え、議論することで、思考力を深めることもできました。ぜひ前向きに捉えて成長につなげて欲しいと期待しています。



青松祭実行委員長
叶佳嬭さん (国際文化交流学科2年)

オンライン開催だからこそ、幅広い方々に楽しんでもらえるよう、実行委員会でも度々打ち合わせをして準備を進めました。実行委員以外の学生や先生、地域の方々にも色々ご協力をいただき感謝しています。私が特に印象に残っているのは「小松市紹介」動画です。見せたい素材がたくさんありすぎて、まとめるのが難しかったです。動画には個性豊かな学生がたくさん登場しますので、見逃し配信で皆さんぜひご覧ください。

第4回

せいしょう 青松祭

YouTube 配信

United Power ~ちからを一つに~

令和3年10月23日(土)

昨年に引き続きオンライン開催となった大学祭。実行委員会が企画・制作した、サークル紹介や学術講演、研究室訪問、小松市の名所紹介など様々な動画コンテンツを配信したほか、写真投稿による「後ろ姿コンテスト」や、ライブ配信を利用したキーワードクイズも実施しました。

YouTube 「公立小松大学青松祭」チャンネル▶▶



おめでとう！ 輝く小松大生

第4回全国大学生俳句選手権大会 準グランプリ

東美里さん (国際文化交流学科2年)
9月4日に開催された大会に金沢大学チームと共に出場し、「芒原 抜けたら君を帰さうか」という作品で準グランプリに選ばれました。

第2種 ME 技術実力検定試験 ((公財) 日本生体医工学会) 臨床工学科の学生 54人が合格

9月12日に実施された試験で、本学臨床工学科の2年生11人、3年生27人、4年生16人が合格しました。

小松の観光大使「こまつ姫御前」に選出

松下由依さん (看護学科3年)
伊藤莉子さん (国際文化交流学科3年)



右が松下さん 左が伊藤さん

11月3日に認証式が行われました。約1年間、市の魅力を県内外にPRしていきます。

江蘇杯中国語スピーチコンテスト初級班朗読部門

一等賞 (全体1位)・中華人民共和国駐名古屋総領事賞
西本一葉さん (国際文化交流学科1年)

一等賞 (全体3位) 小林美月さん (同1年)
12月18日にオンラインで開催。本学学生の受賞は4年連続です。



360度バーチャルで見る滝ヶ原の景色

国際文化交流学科3年生が、地域実習「滝ヶ原フィールドワーク」(朝倉由希准教授担当)でウェブサイトと動画、360度バーチャルを作成。アーチ石橋群や石切り場、地元の新たな取り組みなど、里山の魅力を紹介しています。

ウェブサイトの制作は初めてで、貴重な経験になりました。サイトを見て、滝ヶ原に興味をもってくれる人がいたらうれしいです。里山の自然や文化は外国人にも魅力的で、各ツール外国語への対応もできたらいいと思います。



島谷 瑠実佳さん

ウェブサイト 滝ヶ原フィールドワーク▶▶



広報室学生委員が美食！



紺村亜未さん（1年）、土田瑤さん（1年）

国際文化交流学科の私たちは、普段は中央キャンパスにいるため、末広の学食には初めて来ました。ちょうどイベントメニューの日で、「赤ワインソースの唐揚げ」を頂きました。唐揚げは外はパリパリ、中はジューシーでコクのあるソースと絶妙にマッチしてとてもおいしかったです。バレンタインデーが近いということで、スイーツのサービスまであってびっくり！末広の学生がうらやましくなりました。また利用したいです！



小松市向本折町へ14番地1
末広キャンパスB棟2階
【ランチ提供】11時30分～13時30分
※土日祝日、授業休業期間は休業
【メニュー】ランチセット390円、カレーライス330円、麺類310円。支払いはWAON対応可。また、本学のランチ補助券も利用可。

ぶらりキャンパス案内

末広キャンパス
健幸 Kitchen すえひろ編

末広キャンパスで学生や教職員の憩いの場となっているのが、食堂「健幸 Kitchen すえひろ」です。大きな窓から明るい日差しが差し込む開放的な空間で、キャンパスに隣接する末広緑地公園の木々や田んぼの風景、時には小松空港に発着する航空機の姿も眺めることができます。

管理栄養士監修の日替わりランチやスマートミールプレート、サラダ、単品小鉢、麺類、カレーなど、種類豊富で栄養バランスのとれたメニューが展開されています。また、毎週木曜日は「イベントメニュー」の日と



設定され、旬の食材を使った品やご当地グルメのほか、クリスマスやハロウィンなどの季節メニューが週替わりで登場し、大

人気となっています。席数は約90席で、椅子席のほか、畳敷の小上がりも設置。ランチタイム以外は、自習スペースとしても使用できます。また、食堂隣の売店では、軽食やお菓子のほか、文房具なども取り揃えています。

学生の皆さんは食べ盛りの年代なので、ごはんの量の調整にも気を配っています。大盛や小盛など、希望があったら遠慮なく伝えてくださいね。



外国の言葉や文化に触れながら
コミュニケーションを楽しもう

英会話カフェ
中国語カフェ

開催中！



中国語で中国の家庭料理を学んだ「中国語カフェ@町家ハウス Ryusuke」(2021年10月8日開催)

国際交流センターでは、KIA（小松市国際交流協会）と連携し、「英会話カフェ」や「中国語カフェ」を開催しています。小松市国際交流員やALT（外国語指導助手）、市内在住の外国人と英語や中国語でフリート

みんなで楽しく
おしゃべりしましょう！

私たちは、国際交流員として小松市内で様々な国際交流・国際理解講座やイベントに協力したり、行政の通訳・翻訳業務や、市内に住む外国人への支援を行っています。学生の皆さんともたくさん交流を持ちたいです。ぜひ、遊びに来てください。



小松市国際交流員 パウロ（ブラジル出身）



小松市国際交流員 ファイミン（シンガポール出身）

クを基本としますが、テーマを設けたり、料理講座など海外の文化紹介を行う回もあります。学生はだれでも参加可能（参加費無料）。楽しいコミュニケーションがメインのため、語学スキルは問いません。開催情報は、ホームページでご確認ください（学生には、ポータルと学内掲示でもお知らせしています）。